

時計台前から

特集【P2】



札幌国際プラザ 財団設立25周年記念事業
記念講演会「世界の中の札幌」 ほか

特集【P3】



札幌国際プラザ 財団設立25周年記念事業 ~多文化交流部
札幌姉妹都市スペシャルデイ

コンベンションビューロー【P8】



札幌開催MICEが栄えあるダブル受賞 ほか

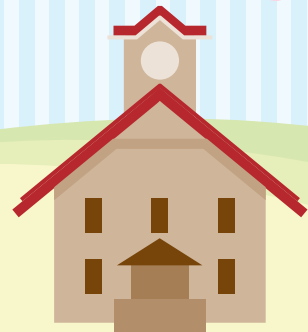
ビジョン

わたしたちは、みんなにやさしく魅力と活力あふれる
国際都市札幌を創造します。



ミッション

- I. 様々な人、文化、情報が集まり、繋がり、広がる拠点となります。
- II. 市民主体の多文化交流をプロデュースします。
- III. MICE を通じた人々の交流と地域経済の活性化を推進します。



記念講演会「世界の中の札幌」

札幌国際プラザは今年度、財団設立25周年を迎えました。その間、賛助会員、ボランティアそして市民・企業の方々に支えられ歩んでまいりました。この節目に当たり、これまでの25年間を振り返るとともに、これからの展望について考える『財団設立25周年記念事業』を開催しました。

未来につなぐ さっぽろのこれまで・これから ダイバーシティ・多様性溢れる街へ



石森秀三氏



横内龍三氏

2016年10月28日（金）に札幌グランドホテルにおいて、記念講演会「世界の中の札幌」を開催しました。はじめに北海道博物館館長の石森秀三氏から「縄文から観光ビッグバンへ～世界の中の札幌の未来」を語っていただきました。次に財団設立当時のメンバーである元専務理事の杉岡昭子氏と現副理事長の若林秀博の二人による対談「札幌市の国際化におけるプラザの役割～その設立、そしてこれから」を、そして最後に北洋銀行会長の横内龍三氏から「地域産業の挑戦～グローバル経済の中で」をお話いただきました。

この中で石森氏からは、北海道の歴史的背景や観光から見た北海道のポテンシャル、中華圏・ASEANとの関係性についてお話があったほか、MICE誘致に取り組む札幌国際プラザの役割と期待をいた

だきました。

また、杉岡氏と若林副理事長の対談では、先人の方々が紡いできた国際化の流れをしっかりと受け継いで、次の世代につなぐ、という責任と自覚を持って札幌国際プラザが事業展開することの重要性が強調されました。

そして横内氏からは、グローバル経済について、戦後70年の経済交流や反グローバルの芽生えなど、世界の動きを捉えた地域のグローバル化について、幅広い視点から助言をいただきました。

札幌には海外から多くの観光客が訪れており、また市内企業の海外進出や留学生や外国人の雇用も増えるなど、国際化が着実に進んでいます。こうした中で今回の記念事業から、地域に貢献するために、札幌国際プラザが何を成すべきかを考えるきっかけとなりました。

ご講演者の方々やご来場の皆さまから暖かいエールをいただきましたことに深く感謝申し上げます。



対談の様子

中学生フューチャー・セッション

少し先の未来、札幌はどんな街になっているでしょう。どんな街にしたいですか？

札幌市の中学生28名が「少し先の未来の札幌」の姿を考えました。
(コーディネーター：グロービス経営大学院特任准教授 難波美帆氏)

財団設立25周年記念事業の一環として、2016年10月29日（土）に札幌国際プラザにおいて「中学生フューチャー・セッション」を開催しました。札幌の歴史を振り返るとともに、25年後の札幌と世界との関わりは？



参加した中学生の皆さん

こに向かって自分たちはどうすべきかなどを、「SAPPOROこども領事」に参加したことがあるなど意欲あふれる中学生たちが、



蟹江俊仁幹事長



秋元克広理事長

ワークショップスタイルで議論し、発表しました。

今年度から札幌国際プラザ理事長となった秋元克広札幌市長と、札幌圏大学国際交流フォーラム幹事長の蟹江俊仁北海道大学教授から、それぞれ「効果的な交通網の整備や雪対策など、大切だと考えている課題がたくさん含まれていた」「問題を解決するためのアイデアが具体的でとても良かった」などの講評がありました。

札幌姉妹都市スペシャルデイ ～親子で知ろう!札幌の姉妹都市～

2017年1月15日(日)に札幌国際プラザ財団設立25周年記念事業「札幌姉妹都市スペシャルデイ」を札幌コンベンションセンターで開催しました。このイベントは、札幌の5つの姉妹・友好都市について、また、長年続けてきた姉妹都市交流について知ることで、これらの都市をより身近に感じ、交流の意義を知っていただくことを目的に、2部構成で開催しました。

第1部「SAPPOROこども領事2017発表会」

国際的な視野を持ち未来を切り開く力を持った青少年を育成することを目的に、札幌国際理解教育研究会の先生の協力のもと平成23年度から始まり、今回で6回目となりました。

12月4日(日)、公募で集まった小学6年生30名は任命式に参加し、抽選によって札幌市の姉妹・友好都市のある5カ国(中国、ドイツ、韓国、ロシア、アメリカ:国連方式アルファベット順)の中から各々担当国が決定。「こども領事」として、領事から任命状を受け取りました。発表会までの1か月半の間、指導役の16名の大学生サポーターと共に、4回にわたる勉強会や領事館への訪問を通じて、それぞれの国に関する知識を深め、チームで1枚の新聞を作り上げていきました。

発表会には100名を超える市民が来場。担当した国の



全員で記念撮影



こども領事作成の新聞

ことばで挨拶をしたり、クイズを交えたりと、こども領事たちは堂々と自分がまとめたテーマを観客に紹介しました。小学生ならではの興味・関心で語られる各国の魅力に来場者も熱心に耳を傾け、「短い文章でも調べたことがよくわかり、楽しく聞きました」といった声や、参加した小学生からも「担当した国について色々なことを知って、行ってみたくなった」「もっとたくさんのことを調べてみたい」などの感想がありました。



ひとりずつ堂々とした発表

ご協力いただいた外国公館 (国連方式アルファベット順)

中華人民共和国駐札幌総領事館・在札幌ドイツ連邦共和国名誉領事事務所・駐札幌大韓民国総領事館・在札幌ロシア連邦総領事館・在札幌米国総領事館

第2部「姉妹都市familyフェスティバル」



大田広域市のブース

会場内に各姉妹都市と札幌を紹介する6個のブースが設けられ、来場者はブースを巡りながら、様々な体験や展示を通じて各国の文化に触れました。それぞれのブースでは各国の領事や各都市出身の方々とその国の言葉で挨拶を交わしたり、子どもに人気のゲームやお菓子を楽しむなど、和やかな雰囲気の中で各都市の魅力を見つけ、新たな交流

が生まれる機会になりました。

また、ステージでは姉妹都市のある国にちなんだステージパフォーマンスやプレゼンテーションが会場を盛り上げ、各都市のこども達から札幌のこども達へのメッセージビデオが上映されました。後日、ビデオの作成に尽力してくれた各都市の協力団体を通じて、お返しに今年各国担当「こども領事」からのビデオを送りました。



ステージパフォーマンス(ロシアのうたの発表)

プラザの25年を支えてきた市民ボランティア

国際プラザのシンボルマーク“3C”に込められた基本理念は、国際交流とコンベンションの振興を幅広い市民参加により推進し、まちづくりに貢献することです。この実現に欠かすことができないのは、国際プラザに属する3つのボランティア団体です。



外国語ボランティア



交流サロンカウンターユニットの活動

札幌国際プラザ外国語ボランティアは、1977年に札幌市が創設した「外国語ボランティア登録制度」が1991年に「札幌国際プラザ」の発足に伴い移管されたもので、40年もの歴史があります。毎年約500名、今年は13ヶ国語での登録があり、MICE分野や国際交流に関わる派遣活動で札幌市の国際化を支えています。

こうした派遣活動のほか、登録ボランティアで作る自主活動組織「外国語ボランティアネットワーク」が運営され、11のユニットに分かれて日々、「国際都市さっぽろ」の実現に向け活動をしています。



時計台ユニットの活動

外国語ボランティアネットワーク11のユニット

- **カウンターユニット**
国際プラザ交流サロンにおいてプラザ職員と協働で観光客や在住外国人に対し、情報提供等を実施。
- **韓国語ユニット**
韓国語登録者で構成するユニット。韓国文化を紹介するセミナー等を開催。
- **観光・日本文化ユニット**
外国人に日本文化や札幌の街について理解を深めてもらイベント等を企画運営。
- **中国語ユニット**
中国語登録者で構成するユニット。中国の祝日に合わせたガイド活動などを実施。
- **ドイツ語ワークショップユニット**
ドイツ語で札幌情報を配信するブログを運営。
- **ロシア語ユニット「ミーシカ」**
ロシア語登録者で構成するユニット。ロシア文化を紹介するセミナー等を開催。
- **多文化とつながるユニット**
在住外国人に札幌で快適な生活を送り、市民との交流を促進できる事業を実施。
- **シティガイドユニット**
主に北海道大学キャンパスウォークツアーを実施。
- **ロマンス語ユニット**
ラテン語から派生したイタリア語・フランス語・スペイン語・ポルトガル語登録者で構成するユニット。
- **時計台ユニット**
札幌時計台において来館者に歴史やその魅力を伝える定点活動を実施。
- **雪まつりユニット**
札幌の一大イベント「雪まつり」会場において、外国人来場者への案内を実施。

ホームステイボランティア

国際プラザのホームステイプログラムは、外国から訪問する方々をボランティア家庭が受け入れ、家族ぐるみでの交流を通じて相互の理解と交流を深めることを目的としています。昭和43年の制度発足から平成28年3月までに、144か国6地域7,790名のゲストを迎えています。

近年は、北海道内で学ぶ留学生が、日本の家庭を体験するための1泊から3泊程度のホームステイを数多く受け入れていただいています。

他にも、年間を通じていろいろなプログラムがあります

ので、ご興味のある方はお気軽にお尋ねください。

また、ホームステイボランティアの皆さんは「札幌ホームステイ協会」として、機関誌「かけはし」の発行や交流会の開催などを通じて、このボランティア制度を側面から支えてくださっています。同協会は平成28年に30周年を迎えました。



インドネシア研修生のホームステイ対面式の様子

日本文化体験ボランティア



1月21日に札幌国際交流館で開催された「お正月を楽しもう」イベントの参加者と

日本文化体験ボランティアは、国際交流、コンベンション等の目的で札幌を訪れた外国人、札幌で学ぶ留学生等に、伝統的な日本文化の体験を通して、日本の歴史や文化への理解を深めてもらうことを目的として活動しています。着付け、茶道、華

道、書道、折紙といった日本の伝統文化に精通した56名のボランティアが登録（3月1日現在）、札幌国際プラザの自主事業に参加する留学生や外国人住民、コンベンションビューローが支援する国際会議・コンベンションに参加する外国人や同行者を対象に、日本文化を楽しく、わかりやすく紹介しています。茶道や華道の場合は、外国語ボランティアの派遣を依頼して様式や作法などを通訳していただくこともあります。

2016年度は、2月に開催された冬季アジア大会など6つの事業に延べ84名を派遣、336名の外国人に着付けや書道などの日本文化を体験していただきました。

ボランティア活動にご興味のある方は、多文化交流部(011-211-2105)までご連絡ください。

- 外国語ボランティア：新規登録説明会（年2回、4月・8月）にご参加ください。
- ホームステイボランティア：通年で登録を受け付けています。
- 日本文化体験ボランティア：お問い合わせください。

交流しながら防災啓発 ～秋の防災バスツアー～

10月22日（土）、札幌在住の新着留学生や外国人が、札幌市民と一緒に防災知識を身に付け、交流を深めることを目的としたバスツアーを実施しました。16カ国43名の外国籍参加者と、20名の日本人市民が半々に分かれてバスに乗り、札幌市民防災センターに向かいました。防災センターでは地震、暴風、消火器、煙道避難を体験し、その後、札幌市民防災協会の細川雅彦氏から災害への心構えとこれからくる冬の過ごし方を学びました。

午後は、自分自身の身を守るための護身術体験を行いました。体を動かすことで、言葉が通じなくても、参加者同士の交流が深まっていく様子がうかがえました。参加者からは「防災センターでの地震や暴風体験はリアルな体験だった」「今回学んだことや体験したことを友人や家族と共有したい」などの感想が寄せられました。

国際プラザでは、今後も外国人と日本人が交流しながら防災について学ぶことができる事業を開催していきます。



護身術前にみんなで準備体操

多言語環境で育つ 子どもの教育を考える

11月27日（日）に、多言語環境で子育てをする保護者や教育関係者を対象としたセミナー「多言語環境で育つ子どもたち～家庭でできる取り組みを考えよう～」を昨年引き続き開催しました。

前半には、実際に札幌市内で多言語環境での子育てをされている方やご自身が多言語環境で育った方計4名のパネリストが、子育てで苦労したことや子どものアイデンティティの問題などについてパネルディスカッションを行いました。後半にはパネリストや参加者同士が子育ての悩みなどをお互いに共有し合う交流会の時間を設けました。

子どもに言語や文化に興味を持たせるための工夫や言語



パネルディスカッションの様子

発達について意見交換が活発に行われ、参加された方からは「同じように子育てで悩む方の意見を知ることができてよかった」との声が聞かれました。

地域の未来のための 多文化共生

12月10日（土）、かでの2・7を会場に「多文化共生ワークショップ」を実施し、27名が参加しました。

（特活）多文化共生センター大阪 代表理事の田村 太郎氏から「北海道の未来と多文化共生～今後10年を見据え取り組むべき課題は？」というテーマで世界と日本、地域社会の視点から課題と展望をご講演いただきました。

分科会では、「グローバル人材活躍の土壌づくり～企業における多様性と多文化共生」と「魅力的な地域づくり～外国人・若者の参画したくなる仕組みを考える」の2つのテーマで事例報告と意見交換をしました。参加者からは、「日本の状況も随分変化したと考えさせられた」「今からできることを少しずつ取り組みたい」などの感想が聞かれ、多文化共生の地域づくりを進めるための有意義な機会となりました。



NPO法人 ezorock 高橋氏による事例紹介

外国人のための確定申告セミナー・相談会

2月18日（土）、税理士が確定申告の基本的な情報や手続きの方法などをわかりやすく説明する「外国人のための確定申告セミナー」を開催しました。また、17日と18日には確定申告について税理士に個別に相談できる「確定申告相談会」も行われました。

このほか、年に6回ほど開催されている「外国人のための

無料相談会」では、在留資格・家族の呼び寄せ・交通事故・国際結婚・離婚・職場のトラブル・相続・税金など、生活の中の問題について弁護士、行政書士、税理士が相談にのっています。

平成29年度のスケジュールは国際プラザのウェブサイトでご確認ください。

世界サステナブル都市ランキングでアジア太平洋地域第1位!

2016年10月、札幌市および国際プラザ・コンベンションビューローは、環境に配慮したサステナブル（持続可能）なMICE開催都市としての取り組み力・誘致力向上を目的として、世界のMICE開催都市のサステナビリティを評価し、持続的な成長を促す世界初の国際環境指標プログラム、GDS-Index(Global Destination Sustainability Index)に参画しました。

国際会議をはじめとするMICEの開催は、都市へ経済効果やレガシーをもたらす一方、参加者の移動により生じるCO₂排出問題など環境面での課題があり、近年業界では都市や企業が持続可能なMICE開催を通して社会的・環境的責任を果たすことが重要視されています。現在は「環境」・「社会」・「企業」・「コンベンションビューローの取り組み」の4要素に基づいた都市の取り組み評価・促進、先進事例の紹介などを行っており、世界38都市（2016年3月現在）が参画しています。

ICCAマレーシア総会でのランキング発表

11月にマレーシア・クチンで行われたICCA（国際会議協会）総会では、GDS-Index立ち上げ後、初の都市ランキングが発表されました。札幌は、国際プラザと札幌市が独自で開発・実施してきたMICE主催者向け環境理解促進プログラム「グリーンMICEサポート制度」をはじめ、豊かな自然環境やコンパクトな都市機能などが高得点に繋がり、シドニー、フランクフルトに並ぶ第10位、アジア太平洋地域では第1位の好成績を収めました。



GDS-Indexのウェブサイト



IMEX America 2016 会場の様子

先進事例の共有が活発に

2016年10月に米国・ラスベガスで開催されたMICE専門見本市「IMEX America2016」では、商談会のほか、GDS-Indexによるサステナビリティ関連のセミナーが開かれ、札幌をはじめとする各国のコンベンションビューローや学協会などが参加しました。先進事例紹介では、MICEの誘致段階で「主催団体が環境配慮へ取り組んでいるかどうか」を確認し、環境への意識の高いMICEを優先的に都市に呼び込んでいる例などが紹介されました。

MICE複合施設 マリーナベイ・サンズ エコの取り組み

2016年10月、国際プラザ・コンベンションビューローは、シンガポールで行われた国際会議主催者セミナーの出展に合わせ、MICE複合施設としても知られる観光名所、マリーナベイ・サンズの視察を行いました。



環境保護を約束したメッセージを常に掲げている

同ホテルでは、ペットボトルに入った飲料の提供を禁止して、ピッチャーとグラスで飲み物を提供するなどのゴミを出さない工夫や、施設内の照明は人感センサーで自動的に点灯・消灯する仕組みにすることで、無駄なエネルギー消費を省いています。



マリーナベイ・サンズ

施設内を案内してくれた、マリーナベイ・サンズの営業部長によると、最初はペットボトルの利用禁止に不便さを懸念する声もあったものの、取り組みを続けるなかで否定的な声は無くなり、今ではエコに配慮した大型MICE施設として広く認知されているとのこと。

GDS-Indexは2020年までに100都市の参画を目指しており、サステナブルなMICE都市の輪がさらに広がっていくことが予想されます。札幌も、MICE誘致・開催で協働する市内企業や主催者と協力しながら、環境に配慮した・持続可能なMICE開催都市として更なる成長を目指します。

札幌開催のMICEがダブル受賞の快挙！

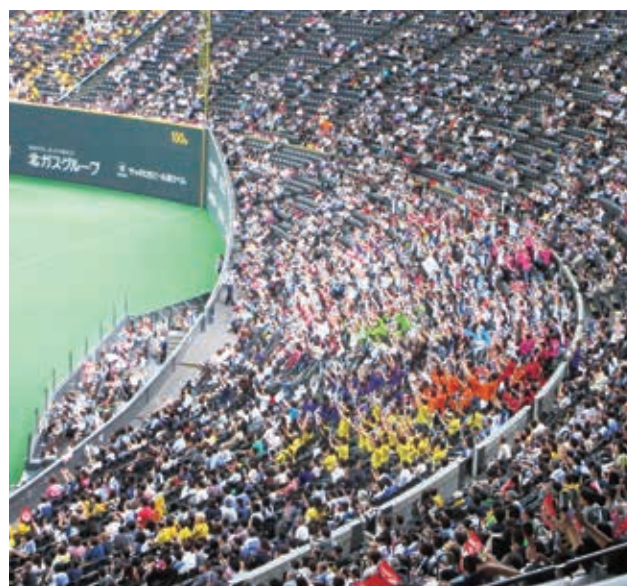
～受賞のポイントは地域への貢献～

日本政府観光局（JNTO）は昨年、日本初の訪日インセンティブ旅行表彰制度「Japan Incentive Travel Awards」を創設し、大賞には台湾の大手生命保険会社が2015年に実施した北海道・札幌ツアーの取扱旅行会社「ライオントラベル」が選定されました。評価基準には、旅行後に主催企業が得た効果や地域文化の魅力発信を通じた地方創生企画の斬新さなどが挙げられており、本ツアーは応募のあった21件の中でも北海道日本ハム



Japan Incentive Travel Awards 授賞式の様子

ファイターズ戦での台湾出身選手の応援企画や、国際プラザ・コンベンションビューローと連携した地元メディアでの広報によるインセンティブ旅行の認知度向上への貢献などが高く評価されての受賞となりました。



北海道日本ハムファイターズの試合観戦



また、JNTOが国際会議の意義の普及啓発・推進を目的として実施する「国際会議誘致・開催貢献賞」では、2015年7月に札幌で開催されたIWMC2015（第5回国際野生動物管理学会）が、運営・地域貢献などにおいて今後の模範となる実績を上げた会議に贈られる「国際会議開催の部」を受賞しました。本会議では、道産食材を用いた食事提供による地域産業のPRや、市民活動団体・大学と連携したプログラムの開催を通じた野生動物管理活動の周知への貢献などが受賞理由となりました。



国際会議誘致・開催貢献賞 授賞式の様子

これらの栄えある賞を受け、札幌への注目度が高まる中、引き続き札幌で開催されるMICEに付加価値をつけられるようなサポートに努めて参ります。

初の冬季開催！ ～HEF国際会議～

台湾を拠点として世界各地で国際会議を企画・実施するHigher Education Forum（HEF）は、2017年1月19日～21日、札幌コンベンションセンターにおいて、冬季の国際会議を開催しました。HEFは2014年より毎年7月に札幌で国際会議を開催していましたが、多数を占める東南アジアや台湾・韓国など東アジアからの参加者より雪のある季節の開催を望む声も多く、主催者がそのニーズに応える形で今回初めての1月開催に至りました。札幌でのコンベンションは、春から秋にかけて多く開催される傾向にありますが、海外企業によるインセンティブツアーは冬季にも多く開催されています。今後は、冬の魅力をいかし多様なニーズに対応しながら、コンベンションの開催時期が広がるよう、主催者等関係者へのアプローチを進めていきます。



会場内のサインも冬ならではのデザインに



分科会での集合写真

主催者からのコメント

今回も半数以上が台湾やタイなど東南アジアからの参加者であり、冬の開催は大変好評でした。一方で、会期中に天候が優れない日があり、市内中心部から会場までの移動が困難であったとの声も聞かれました。こうした課題はあるものの、今回初めて利用した札幌コンベンションセンターの機能には大変満足しています。早速、次回の札幌開催もコンベンションセンターで検討し始めています。

初の東京・札幌共同招請事業

今年度から、札幌市と東京都はMICEに係る協定を結び、共同でインセンティブツアーの誘致を開始しています。その事業の一環として、海外（欧州、北米、東南アジア）から10名のキーパーソンを招請し、両都市のMICEの魅力を紹介する招請事業を実施しました。

行程は、東京に2泊した後、札幌へ移動、札幌および周辺地域を3泊4日で視察し、再び東京へ移動、最終日を東京で過ごして終了というものです。日本らしさの体験に



ピリカコタンにてアイヌ文化体験

加えて、両都市それぞれの魅力を伝えるためのプログラム作りは、国際プラザ・コンベンションビューローにとっても新たなチャレンジとなり

ました。

札幌の冬といえば、最大の魅力は「雪」。スノーアクティビティと大倉山スキージャンプ競技場をはじめ、東京では体験できないアイヌ文化や温泉体験を取り入れたプログラムは、招請者からも大好評でした。

もちろん、札幌ビール、ジンギスカン、新鮮な海産物やお寿司、ラーメンなどの食の魅力もしっかりと体験していただきました。



キロロリゾートにてスノーアクティビティ

ユニークベニュー開発「ニトリ小樽芸術村」



旧三井銀行小樽支店

小樽運河沿いにある複合的芸術空間「ニトリ小樽芸術村」。現在、ステンドグラス美術館とアール・ヌーヴォーグラス館が開館しています。そして、2017年秋に旧三井銀行小樽支店がオープン予定です。

今回の招請事業では、オープン前の旧三井銀行小樽支店でパーティーを開催しました。19世紀末から20世紀初めの北のウォール街・小樽の栄華を

映す歴史的建造物は、まさにユニークベニュー。株式会社ニトリパブリックの協力のもと、パーティー会場としての一面が開発されました。パーティーのテーマは「海」。港町小樽をイメージさせる波のイルミネーションや浮きのオブジェ、床面にほどこされた水面を髣髴とさせるプロジェクションマッピング。そして小樽ならではの食材を取り入れたメニュー。すべてが招請者の心を強く捉えました。



ステンドグラス美術館



ユニークベニューパーティー

海外プロモーション事業 in 東南アジア

東南アジアからのインセンティブツアー誘致のため、秋以降も海外プロモーション事業を行いました。9月にはタイ・バンコクで開催されたIT&CMAに出展し、10月には北海道観光振興機構道央地域分科会と共にベトナム・ホーチミンにて初の「北海道・札幌 観光&MICEプロモーション」を開催しました。ベトナムでは、2011年にサッポロビールが初の海外工場を設立、また道産食材を使った日本料理レストランが人気を見せるなど、まさに今、札幌・北海道が新たな目的地として注目を浴びています。

著しい経済発展と共に、訪日旅行において大きな成長を遂げている東南アジアの中でも特にベトナムとフィリピン市場については、今後さらなるインセンティブツアー増加が予想されています。3月にはそれらの市場からキーパーソ

ンを招請し、札幌を紹介する招請事業を予定しております。

来年度も引き続き東南アジアだけでなく、中国、韓国などでのプロモーションも予定しております。訪日旅行の成熟度が高い市場でも新たな面から札幌の魅力を伝え、積極的な海外プロモーションを続けていきます。



IT&CMA 札幌ブース

都市間連携から「オール北海道」によるMICE誘致へ

～北海道MICE誘致推進協議会へ組織改編～

国際プラザ・コンベンションビューローなど道内5都市（札幌・旭川・函館・釧路・北見）のMICE推進機関と北海道で構成され、1993年から活動してきた「北海道コンベンション誘致推進協議会」は、コンベンションからMICE分野へと対象を広げることを目的として2016年度より「北海道MICE誘致推進協議会」に改称し、活動を始めました。11月には東京においてコンベンション、インセンティブツアーの主催者や取扱企業などを対象と



専門家によるパネルディスカッション



北海道ブースでの商談

したプロモーションを実施したほか、12月にはパシフィコ横浜で開催された第26回国際ミーティング・エキスポ（IME2016）に共同出展し、各都市がMICEのPRを展開しました。また、2017年1月25日には、札幌において「北海道MICEフォーラム」を初開催、130名の参加者は、北海道を挙げてのMICEの本格的な取り組みに強い関心を示していました。2017年度には帯広が再加盟を予定しており、体制の強化が図られる中、「オール北海道」によるMICEの誘致に向けた取組を推進してまいります。

地方創生に向けたインバウンド・MICEの人材育成に向けて

札幌におけるMICE業界の担い手育成を目的として、国際プラザ・コンベンションビューローでは昨年度から横浜



札幌講座の様子

商科大学との連携により、主に業界関係者を対象とした地域のインバウンド・MICE分野の人材育成事業を展開しており、1月20日にはさっぽろテレビ塔を会場に講座を開講しました。今回の講座では、札幌やニセコエリアのMICEやスポーツツーリズム、インバウンド関係の専門家が登壇し、北海道・札幌がインバウンド・MICEの受入において発展を続けるために、①大自然や独特の歴史・文化背景を活用した観光商品の開発、②ターゲットとする国・地域の実情に寄り添ったプロモーション、③外国人に限らず地元の人々も楽しめる商品やイベントの開発と情報発信、④言語対応のみならず来訪者に対する歓迎・おもてなしの心を持った人材の育成などが重要であるとの提言があり、参加者との活発な意見交換がなされました。

「北海道MICE誘致促進事業」

～道内10都市で地域セミナー開催～

NPO法人コンベンション札幌ネットワークでは、北海道観光振興機構主催の道内10都市での地域セミナー実施に協力いたしました。各地域とも国際会議、企業の報奨旅行やミーティングの誘致を重要視しており、今回のセミナーは、そのための地域資源発掘と資源を具体的に誘致につなげるのが課題でした。アンケートの結果、セミナー実施により各地域とも、改めて地域資源の重要性を認識し、誘致に結びつける方法を学ぶ機会となったようであり、北海道全体のMICE誘致力アップにつながるセミナーとなりました。

しかし、具体的な地域資源の活用にはもっと検討・議論する必要があります。今後の各都市のさらなる取り組みが期待されます。



「MICE誘致力アップセミナー札幌」の様子

2017冬季アジア札幌大会 ～ウィンタースポーツでつながるアジア～

大会総括 5競技64種目／選手・役員約2千人／総来場者数約8万人／メダル獲得1位：日本（金27、銀21、銅26）

2月19日から26日まで、札幌市・帯広市において第8回冬季アジア大会が開催されました。冬季アジア大会は、アジアの45の国と地域が加盟するアジアオリンピック評議会（OCA）がアジア地域における冬季スポーツの発展を図ることを目的として開催する総合国際スポーツ大会です。白熱の戦いが連日繰り広げられた一方で、選手団や観

客はウィンタースポーツの魅力と、それを育む豊かな自然のすばらしさを感じたに違いありません。温かいおもてなしとともに、安心・快適かつコンパクトで持続可能な大会を目指した今大会のレガシー（遺産）は、2026冬季オリンピック招致に向けた活動を後押しするものになります。

札幌・北海道の魅力発信

当コミッションは、大会期間中のメディアプレスセンター内に「札幌・北海道情報特設ブース」を設け、道内各地の観光情報PRのほか、海外メディア向けの市内バスツアーを連日実施しました。さらに、中国メディア向けのPRセミナーを開催するなど、世界に向けた魅力発信を展開しました。



海外メディア向けバスツアー（大倉山ジャンプ競技場）

スポーツボランティア

大会コンセプト「アジアから集う人々がつながり、多様な文化の交流と理解を育むなかで、友好と平和な世界を広げる」の実現に大きく貢献したのは、今大会ボランティアであることは間違いありません。ボランティア活動をレガシーのひとつとして受け継ぐため、新たに当コミッションでは「スポーツボランティア」制度を立ち上げることとなりました。年間を通して様々なスポーツ大会でのボランティア活動をご紹介します内容となっており、4月上旬からボランティア登録受付を開始します。募集要項など詳しくは、当コミッションのホームページをご覧ください。

<http://www.sapporosport.org/volunteers/>

2018冬季オリンピック平昌大会

スウェーデンオリンピック代表チーム事前合宿～札幌市・伊達市に決定

スウェーデンオリンピック委員会が、2018冬季オリンピック平昌大会に向けて、北海道札幌市（バイアスロン）伊達市（クロスカントリースキー）での事前合宿実施を決定したことを受け、2016年12月1日に札幌市役所本庁舎で関係5団体（スウェーデンオリンピック委員会、日本オリンピック委員会、札幌市、伊達市、日本バイアスロン連盟）が合宿実施に関する基本合意書調印式に臨みました。誘致にあたり、当コミッションでは関係機関と連携して視察受入や

現地情報とりまとめ等の支援を行い、国内初の平昌オリンピック海外代表チーム事前合宿誘致決定につなげることができました。合宿受入を通じて、世界に向けた札幌・北海道の優れたスポーツ環境の発信と、地元市民と選手団との交流が進展するよう取り組んでいます。



基本合意書を手にする秋元札幌市長ら

公式ホームページ&ソーシャルメディア開設

スポーツコミッション公式ホームページ・Facebookページでは、スポーツ関係者に限らず世界中のスポーツファンに札幌・北海道の魅力を様々なかたちでお伝えしています。ぜひご覧ください！



さっぽろグローバルスポーツコミッション

検索

大規模スポーツイベントカレンダー

2017年4月以降、北海道内で開催される国際・国内大規模スポーツイベントをご紹介します。公式ホームページでは随時、新着情報を追加・更新しています。

日程	大会名	開催地
2017年8月27日	北海道マラソン2017	札幌市
2017年9月8-10日	ツール・ド・北海道	道南地域
2018年9月14-18日	日本スポーツマスターズ2018 札幌大会	札幌市、江別市、石狩市
2019年9月20日-11月2日	2019ラグビーワールドカップ	札幌市など 全国12会場

着任あいさつ

リア・クラス (アメリカ国際交流員)



Hello! はじめまして。アメリカのオレゴン州から参りました。出身はポートランドのすぐ近くビーバートン市です。以前、3回くらい来日したことがありますが、札幌は初めてです!これから、国際交流員として皆と交流したり、札幌や北海道の魅力を体験したり、日本での生活をしたたりするのを楽しみにしています。皆さん、ぜひレッツトークイングリッシュで、にぎやかな会話をしましょう!どうぞよろしくお祈りします。

レオナルド・ブリンクマン (ドイツ国際交流員)



Guten Tag! 札幌市の皆さん、はじめまして!ドイツから参りました。出身は南ドイツにあるバイエルン州のインゴルシュタット市です。今回は、私にとって二回目の日本滞在となります。札幌に住むのは初めてなのですが、今から国際交流員として活動するのを楽しみにしています。ドイツの代表としてドイツの魅力を紹介し、皆さんと一緒にドイツと日本の友好関係を深めたいと思います。どうぞよろしくお祈りいたします。

離任あいさつ

ソン・ミンジ (韓国国際交流員)



韓国の国際交流員、ソン・ミンジです。

着任のあいさつ文に載せる写真や文章を悩んだことがまるで昨日のようですが、いつの間にか3年が経ってしまいました。こんなにも時間が早く経ったと感じるのは、きっと札幌での時間が充実していて、毎日が楽しかった証拠だと思います。笑顔になれる街、札幌で出会った皆さんは、いつも私を笑顔にしてくれました!この貴重な経験は一生忘れられないと思います。本当にありがとうございました!またお会いしましょう~トマンナヨ!

プラザサポーターズ 札幌国際プラザ賛助会員企業のご紹介

北海道・札幌のまちをより良くしたい、元気にしたいという思いは、国際プラザの賛助会員の皆さんも同じです。そんな法人賛助会員の皆様の地域貢献活動や、地域へそぞろ熱い思いをご紹介します。

キャリアバンク株式会社



北海道の将来、グローバル化を考える時、外国人の労働力は不可欠な要素です。特に観光業においては語学の堪能な人材を確保することが喫緊の課題となっています。キャリアバンクでは中国の大学と提携し、日本語を専攻する学生に道内の観光施設でのインターンシップを紹介しています。単位の取得と合わせて、渡航費用を賄える収入も確保でき、履歴書の経験欄にも記載できるとあって学生には大変魅力的です。施

設でも繁忙期に必要な労働力を確保できるメリットがあります。この取り組みを強化するため、昨年11月、世界的なリゾート地へと変貌しつつあるニセコ・倶知安地区にオフィスを新設しました。

札幌は海外から多くの観光客を受け入れています。留学生数では仙台、福岡にも及びません。そこでキャリアバンクでは昨年、日本語学校の経営も始めました。人材派遣会社として日本語を学びに来る海外の学生たちにアルバイト先を斡旋することができます。その後地元大学への進学や就職をサポートすることにより、地域に必要な人材を供給していくことで、札幌・北海道のグローバル化に貢献できればと願っています。

HTB 北海道テレビ放送株式会社

HTBでは「地域メディア」の本業を生かした様々な活動を行っています。その一つとして、1997年から20年に渡り、海外向けの情報番組を制作し、アジアを中心に展開しています。



2013年からは外国人MCの目線で北海道の愛あふれる・ヒト・モノ・コトを伝える番組『LOVE HOKKAIDO』を制作。

現在では世界約8億人が視聴可能です。北海道へのインバウンドの更なる活性化に貢献できるよう、これからも北海道の魅力を発信していきます。

またHTBでは次世代を担う子ども達のために、保育園・幼稚園・小学校・小児病棟等へ出向き、アナウンサーによる絵本の読み聞かせを行っているほか、将来の職業観醸成のため、仕事の楽しさ厳しさ、多様な職業について学ぶ機会として、専門家との交流イベントを地域と連携して実施しています。

HTBは放送をはじめ、インターネットやリアルイベントによる様々な活動で、地域との共感、信頼関係を築いています。みんなのユメミル、チカラを応援し、地域の未来に貢献する。それが地域メディア・HTBのすべての活動の原点です。

※国際プラザでは、同コーナーへの記事掲載にご協力頂ける法人賛助会員様を募集しています。

札幌国際プラザ賛助会員制度のご案内

札幌国際プラザは、多くの皆様に支えられ、異なる言語・文化を尊重しあい、共に生きるまちづくりや、MICEの振興、人材の育成を行っています。札幌市が国際都市としてさらに発展するために、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

詳細は企画事業部総務課までお問い合わせください。

TEL:011-211-3670 FAX:011-211-3673 Email:sanjo@plaza-sapporo.or.jp

年会費

法人 1口 2万円
個人 1口 3千円
※1口以上、何口でも結構です。

編集・発行



札幌国際プラザ

〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNビル 3F
Kita1 Nishi3, Chuo-ku, Sapporo 060-0001 JAPAN
TEL:011-211-3670 FAX:011-211-3673
E-mail:sicpf@plaza-sapporo.or.jp

URL : <http://www.plaza-sapporo.or.jp>

印刷 株式会社 プリプレス・センター

北海道の森林保全と環境への配慮のため、道産間伐材を原料にした用紙、有害廃液の出ない「水なし印刷」及び植物油インキを使用して作成しています。

